

裏磐梯の絶滅危惧種 植物

1・目的

2017年版絶滅危惧種が発表されたので新しく指定されたアラゲヒョウタンボク、アオチドリを加えて、従来の植物のトキソウ、セイタカスズムシソウ、ツレサギソウを調査する。

2・結果

- 1) アラゲヒョウタンボクは裏磐梯では特定の場所（非公開）で生息をしている。
- 2) アオチドリは磐梯山では確認済みであるが磐梯高原で4株の生息を確認出来た。
今年は磐梯山のアオチドリを調査予定です。
- 3) 2年前に秋元湖付近に160株のトキソウを確認した場所が去年は4株を確認、そして今年には9株を確認出来た。盗掘なのかイノシシなのか分からない穴が確認できた。
- 4) ツレサギソウは今年も保護官事務所のご協力を得て柵をしてもらい無事開花した。
- 5) セイタカスズムシソウは去年から株数の減少が見られ、今年も同様であった。

3・考察

生育にマイナスの要因と思われるもの

- 1) 自然の遷移による
- 2) 園芸の為の採取
- 3) 湿原の開発
- 4) 森林の伐採
- 5) 気候の変化

裏磐梯では上記の原因が考えられる。

4・対策

- 1) 環境省などが保護に力を入れてもらう。そして盗掘の取り締まりをする。
- 2) 民間の自然ガイドなどを監視員に委嘱し、巡視の協力をしてもらう。
- 3) 当該地点については特定の監視員等のみが把握し、一般への公表は控える。
- 4) 子供達に生物多様性の大切さを教える。

以上のような点をふまえて、早急なる保護対策が必要と思われる。

5・概要

平成30年4月23日

平成30年5月24日

平成30年6月23日

平成30年6月29日

平成30年7月17日

調査者 友坂 豊

調査種の植物の詳細を以下に示す